

あわよくば

2 MARK 勝負

魚谷智之さんの引退、ファンとしての気持ち

グランプリ初日の12月17日、衝撃的なニュースが飛び込んできた。「魚谷智之、電撃引退」。兵庫支部のトップを走ってきた看板レーサーが突然引退すると表明した。ヤフーニュースではトップで扱われ、SNSでは「魚谷引退」がトレンド入りするなど、この出来事が一気に拡散された。

魚谷さんは個人的に思い入れの強い選手だった。ボートを覚えてたの20数年前、尼崎の年末戦でA1級になりたての魚谷さんの走りに目を奪われた。当時は新鋭世代だったので、原石を見つけたとワクワクした。初めて大きな配当を取らせてもらったのも、魚谷さんの舟券だった。そんなこともあって、毎年オーlustターファン投票では1票を投じてきた。

引退の理由などはここでは割愛するが、やはり選手の引退は事前に周知してほしい。成績不振による強制的な引退の場合は、事前にラストランになる節がある程度わかる。しかし、今回のような突発的な場合、事後報告になり、ファンの気持ちが置いてけぼりになってしまう。

プロ野球やサッカーでも、引退試合は興行として大きな需要がある。ただこれらの競技で引退試合をやってもらえるのは大きな成果を残したほんの一握りの選手のみ。大半は戦力外通告

などで人知れずチームを去るケースがほとんどだ。

しかしボート界は、ケガや特別な事情がある場合を除き、多くの選手に対して実施できるはずだ。ただ今回の魚谷さんのように、事前に引退を告知しないケースは大物選手に多い。植木通彦さんを筆頭に、今村豊さん、加藤峻二さん、山崎智也さん、上瀧和則さんなど、いずれも「電撃引退」と報じられた選手だ。この中には後日ファンの前で引退報告を行うケースはあったが、引退レースとして水面で最後の応援をさせてもらえることは少ない。

もちろんボートにはファンが舟券を買うという大前提がある。本来、選手が手心を加えるかもしれないという要素は極力排除すべきだが、こと引退レースに関しては、それを含めた予想として割り切れないか。実際、引退レースと事前に告知している場合でも、走りだしてしまえば選手はガチンコ。最後のレースで勝てずに終わるケースも多く、心配は無用だと思われる。ボートレーサーは競技人生が長く、応援するファンも長くとも歩むもの。そんな選手が引退するというのは、本人だけでなくファンにとっても特別なこと。ラストランを目に焼き付け、一緒に区切りを付けさせてほしいものだ。

(ウエスギ)